小学校の事例 西　区 山の手小学校

地域を知り、地域に還元。川の観察をとおして自然に親しみ理解を深める。

身近な川を教材に学習。学習方法は周囲の観察から始まり、
環境教育リーダーを利用して実際に川に入るなど、理解が深まる工夫も。
地域の「西区ホタルの会」の協力を得て、自然を守る意識を高める取組。

内容 川へ入り 植物や生物に触れる

本校では、4年生が総合的な学習の時間の授業時数の約3分の2を使い、琴似発寒川の観察を行うことで日常的に自然環境に親しんでいる。

春は川へ行き、周辺を観察。川の近くに生息している動植物、川の水量調査などを実施。土木事業所へも足を運び、下水のしくみの話などを聞き、川への理解を深めている。

夏には、実際に川に入って観察を行っている。環境教育リーダーに川での観察具を用意してもらい現地で指導を受ける取組である。「西区ホタルの会」からも話を聞き、川の自然を守る意識を高めている。ホタルの会の方は、「大人になっても自然を大切にする人であってほしい」という思いを児童に伝えた。

観察を行う際には、環境省の「いきものみっけ手帖」や環境局の「水生生物調査ハンドブック・川の生き物と友達になろう」、また、ホタルの会の「生き物観察ノート」などの副教材も利用している。副教材には、琴似発寒川に実際に生えている植物や生息している昆虫が載っており、非常に役に立っている。

その後、観察したことをクイズ形式や、「今後、川の姿はこうあってほしい」と願いをポスターに表すなど様々な形でまとめ、発表したり区役所に掲示したりしている。

課題 より大きな教員同士のネットワークを

教員も川の観察は初めてで、最初は戸惑うことが多く、安全や天候への配慮について、検討する必要があった。また、川の生物については教員の知らないものもたくさんあった。そんなときには、専門の方や、地域の方の協力を得ることが不可欠である。様々な分野における専門の方は探してみると案外近くにいるものなので、データベースのようなものがあればなお良いと思う。そのためには、教員同士のネットワークがますます重要になると感じている。

川の観察

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

4年生以外にも、地域のあらゆる問題について、環境や福祉の視点からの解決、探究行動を行っています。3年生は三角山の、5年生は地域の福祉について調べており、6年生は区とアダプト・プログラムを組み、地域の清掃活動に取組んでいます。

このような学習を通して改めて地域の自然を観察したり、人にふれあったりすることで、子どもが「地域の自然を守っていくために、自分たちには何ができるのか」を考え、「この地域で育ってよかった」と思えるような活動をこれからも続けていきたいと思っています。

MEMO

未来の札幌を見つめる【環境】
イメージキャラクター「ちっきゅん」